

医師を目指して現場を体験 本院で高校生セミナー

県内1年生
27人が参加



腹腔鏡による手術を見学する高校生（中央の2人）

医師を目指す県内の高校生を対象にした平成30年度後期「地域医療体験セミナー」（医師コース）は、3月7日（木）午前8時半から総合南東北病院で開かれ、高校生が医療の現場を体験、医師の仕事に理解を深めました。

県教委の委託事業「ふくしまの未来を担う夢応援事業」の一環で3回目。本県の医師不足を踏まえた人材育成の願いも込め、医療人ネットワーク合同会社（福島市）と総合南東北病院が連携し実施しました。

今回は県内10校（県立8校、私立2校）から27人（男子8人、女子19人）が参加。北棟第5会議室で行われたオリエンテーションで寺西寧院長が励ましました。

生徒たちは①外科②心臓血管外科③外傷センター④脳神経外科・脳神経内科⑤放射線治療・循環器内科⑥消化器内科・放射線治療⑦歯科口腔外科の7つの班に分かれ、班ごとに組まれたプログラムに従って体験学習を行いました。

このうち外科班の4人は2組に分かれ、午前中、一



放射線治療の計画作成などを学ぶ高校生



外傷センターで説明を聴く高校生

方は胆のう切除、もう一方は腹膜腫瘍摘出の手術に立ち会いました。いずれも腹腔鏡を使つての手術。生徒たちは医師の指導に従って入念に手洗いし、キャップ、ガウン、ゴム手袋を装着。モニター画面を見ながら手術に取り組み、医師の一挙手一投足を緊張しながら見ていました。

このほか各班のプログラムには、模擬骨を使った実



研修医や医学部生との意見交換



コイルを使った動脈瘤治療を学ぶ高校生

習、人工血管吻合体験、がん陽子線治療センター見学、歯の模擬治療体験などもありました。

昼食時の全体会では心臓血管外科の緑川博文医師が「医師を目指す皆さんへ」と題し、医師になるといふことはどういうことかを自らの体験を披露しながら熱く語りました。研修医と福島県立医科大医学部生との意見交換も行われました。



寺西院長（中央）らを囲み写真に収まる高校生

終了時には各班の代表が体験の感想を述べました。「目標が明確になった」「患者さんとのコミュニケーションの大切さを知った」「医師にも物理や化学が生かせる分野があると認識した」などの感想があり、生徒たちは目標に向けて決意を新たにしました。